

クビアカツヤカミキリに関する取り組み

和歌山県農林水産部 農業環境・鳥獣害対策室



●はじめに

和歌山県では、平成29年7月、かつらぎ町で初めてクビアカツヤカミキリ（以下クビアカ）雄成虫1頭が発見され侵入を警戒していました（写真1）。

写真1



2年後の令和元年11月に、かつらぎ町のモモ園においてフラス（木くずと虫糞の混合物）排出の被害を初めて確認し、令和2年3月末には、かつらぎ町のモモやスモモの7園地で合計15本の被害樹を確認しました。

その後被害報告が増え、令和3年3月末現在、かつらぎ町、橋本市、紀の川市、岩出市の51園地のスモモ、モモ、ウメ195本で被害が確認されています（表1）。

表1 クビアカツヤカミキリの被害状況
（令和3年3月末）

市町村名	品目	園地数	被害本数
かつらぎ町	すもも	15	112
	もも	17	42
	うめ	8	20
橋本市	すもも	4	6
	もも	1	2
	うめ	1	1
紀の川市	もも	3	8
岩出市	もも	2	4
合計		51	195

●発生分布

クビアカは、ロシア極東部、中国、朝鮮半島およびベトナム北部まで南北に幅広く生息している害虫です。国内では、平成23年に埼玉県で最初の成虫が発見され、平成24年には愛知県で最初の被害報告があります。令和3年3月までに11都府県において、モモやスモモ、ウメ、サクラ等バラ科樹木で被害が確認されており、近隣では大阪府、奈良県、徳島県で発生しています（表2）。

表2 被害初確認年度と発生都府県一覧

年度	都府県名
平成24年	愛知県
平成25年	埼玉県
平成27年	群馬県、東京都、大阪府、徳島県
平成29年	栃木県
令和元年	奈良県、三重県、茨城県、和歌山県

●成虫について

成虫は、主に6月下旬～8月上旬に発生します。樹体内から脱出した雌成虫は樹皮の割目や窪みに産卵します。本種は産卵数が極めて多く、飼育条件下では1,000個以上産卵した事例も知られています。卵は約10日でふ化し、樹木内部に食入します。

●幼虫について

幼虫は、樹の中に入り込み夏から秋に形成層周辺を食べ冬に活動休止後、翌春、食害を再開し成長します（写真2）。

写真2



幼虫が春から秋に活動することで、樹液を含む麵状やミンチ状の硬めのフラスを排出します(写真3)。

写真3



また、成長した幼虫が木質部へ穿孔し蛹室(蛹になる部屋)をつくる際、樹液を含まないサラサラのフラスが株元に積もる症状がみられます(写真4)。

写真4



●防除対策

生産者の方は園内を見回り、疑似フラスを見つけたら関係機関に相談いただくとともに、主に4つの防除対策について取り組みをお願いします。

1. 幼虫の殺虫(掘り取り)

フラスの排出部分を発見した時点で、既に形成層が広範囲で食害されている場合があります(写真5)。

写真5



まず、マイナスドライバーで表皮を剥がしフラスを掻き出します。次に先端を曲げた針金を差し込み、奥のフラスを掻き出し、幼虫を刺殺または取り出します(写真6)。

写真6



さらに、生存している幼虫が残っているかもしれないため、フラス排出孔にロビンフード等を噴射します(写真7)。



写真7

また、表皮を剥がした際の傷にはトップジン M ペーストを塗布します。

2. 成虫離脱防止のネット被覆と成虫捕殺

ネット被覆は、成虫の飛び出しを防ぐため5月下旬頃までに実施する必要があります。被覆方法は、樹に密着させて巻きつけると、出てきた成虫がすぐにネットを噛み切る恐れがあるため、ゆったり巻きつけます。頑丈な紐を用い隙間ができないよう注意し2重に巻きます。最後に株元部分はU字の杭を用い地面に固定します(写真8)。



写真8

ネットを巻いて終了ではありません。ネット内を定期的に見回り樹から出てきた成虫を捕殺しなければ、ネットを噛み切り脱出したり、ネット内で交尾・産卵する恐れがあります。

3. 農薬の樹冠散布

成虫の主な発生時期である6月下旬～8月上旬に、10～14日間隔を目標に葉だけでなく枝幹全体に薬剤がかかるよう、丁寧に散布してください。特に成虫の活動が活発な7月の散布が重要と考えられることから、収穫後であっても薬剤散布が必要となります(表3)。

表3 クビアカが判成虫の防除に使用できる農薬(令和3年4月現在)

作物名	農薬の名称	収穫前日数/回数	希釈倍数
もも	モスピラン顆粒水溶剤	前日/3回 まで	2000倍
	アクタラ顆粒水溶剤	前日/3回 まで	2000倍
	テツパン液剤	前日/2回 まで	2000倍
	ダントツ水溶剤	7日前/3回 まで	2000倍
	オリオン水和剤40	14日前/2回 まで	1000倍
	スプラサイド水和剤	21日前/2回 まで	1500倍
	スプラサイドM	60日前/2回 まで	200倍
	ベニカ水和剤	7日前/3回 まで	2000倍
	ハチハチフロアブル	成虫発生期但し、前日/2回 まで	1000倍
	すもも	モスピラン顆粒水溶剤	前日/3回 まで
テツパン液剤		前日/2回 まで	2000倍
アクタラ顆粒水溶剤		7日前/2回 まで	2000倍
オリオン水和剤40		7日前/3回 まで	1000倍
スプラサイド水和剤		14日前/2回 まで	1500倍
オリオン水和剤40		成虫発生期但し、7日前/3回 まで	1000倍
うめ		モスピラン顆粒水溶剤	前日/3回 まで
	アクセルフロアブル	前日/3回 まで	1000倍
	ダントツ水溶剤	前日/3回 まで	2000倍
	アクタラ顆粒水溶剤	7日前/2回 まで	2000倍
	オリオン水和剤40	7日前/3回 まで	1000倍
	スプラサイド水和剤	14日前/2回 まで	1500倍
	ベニカ水和剤	前日/3回 まで	2000倍

注)購入前や使用前に最新の適用情報を確認してください。

4. 伐倒駆除(伐採・抜根)

クビアカを確実に処分するには、伐倒処理が最も有効な方法ですが、実施時期は、成虫が飛び出す恐れが無い9月から翌年4月までの期間に限られます。クビアカの成虫は樹が枯れた状態でも離脱できることから、伐採樹は放置せず10mm以下に粉砕するか焼却処分してください。

幼虫は根に食い入るケースも確認されていることから、やむを得ず抜根できない場合は、切り株を目合い4mm程度のネットで覆い、さらに耐久性の高いブルーシートや防草シートで3年間密閉します(写真9)。

写真9



現在、有効な防除対策を求められていますが、薬剤や樹木保護資材の効果に関しては、試験研究機関において検証する予定になっています。

●県内での取り組み

関係機関と連携し、主に3つの取り組みを実施しています。

1. 被害発生調査（園地の把握）について

1) 県内全域において各振興局別に農地のバラ科果樹、森林や公園等のサクラについて、定点を設け、春～夏、秋～冬の年2回、JA、市町等とともにモニタリング調査を実施しています。

2) 疑似フラスや成虫発見の通報が入った際、初動調査として、情報が入った園地等を確認し、その後、JA、市町、県振興局、県自然環境室、県森林整備課等との連携による周囲1km圏内の調査を実施しています。そして、各地域や各園地の被害本数の増加状況を確認し取りまとめています。

疑似フラス確認後の通報先や通報体制については、和歌山県のホームページ：

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/d00204085.html> や啓発チラシ等でお伝えしています。

3) 令和2年度は、成虫離脱防止のネット被覆設置園等において、成虫の発発生消長を雌雄別に調査したことで、7月は発生頭数が多く、薬剤散布が重要な時期であることを確認しました。

2. 試験研究について

1) 県かき・もも研究所と県うめ研究所では、

イノベーション創出強化研究推進事業「サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発」（平成30年～令和3年）に参画し（国研）森林総研などと、イノベティブ技術による管理手法の開発として、オンラインマッピングシステムの効率的な管理手法の開発に取り組んでいます。

2) 県かき・もも研究所、県うめ研究所、県林業試験場では、県の競争力アップ技術開発事業（令和3年～5年）において、有効薬剤の探索等の薬剤による防除技術開発に取り組んでいます。

3) 県かきもも・研究所では、令和3年の国の交付金を活用し、物理的防除技術開発にも取り組んでいます。

3. 啓発活動（研修会）・支援策等について

1) 県北部のもも、すもも産地や県南部のうめ産地において生産者向けの対策研修会を実施し、現在の発生状況や防除方法について紹介しました。また、今後も引き続きチラシ配布、広報誌、テレビ、ラジオ等を介して啓発活動に取り組みます（参考 啓発資料）。

2) クビアカ被害樹の伐倒やネット被覆に活用できる本県独自の病害虫防除対策支援があります。支援内容は、伐採費（抜根含む）は定額30千円/本、伐採費+根の被覆費は定額20千円/本、ネット被覆費は定額2千円/本を支援します。実施には写真での記録等が必要となりますので、最寄りの振興局農業水産振興課にお問い合わせください。

●さいごに

クビアカの被害拡大防止には、被害樹の早期発見と早期防除が重要と考えています。モモ、スモモ、ウメ園地やサクラ生育地で、主枝の下や株元に多量のフラス、麵状やミンチ状に固まったフラス等、クビアカと思われる疑似フラスまたは成虫を発見した場合は、最寄りの振興局農業水産振興課、JA、市町村役場等の何れかに連絡をお願いします。